

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201039		
法人名	(株)アイケア		
事業所名	グループホームあいの街袖師		
所在地	静岡県清水区袖師町141-1		
自己評価作成日	平成31年2月18日	評価結果市町村受理日	平成31年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&jigyosvCd=2294201039-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

以前に比べ利用者様の状態がだんだん落ちている。以前行っていた針仕事やトランプなどぜんぜんできなくなったり、意欲がなくなりみんなで同じことをするのが難しくなった。職員は残存機能を活かして頂ける様個別に対応しています。また、ご家族の希望で少しでも長くここを使用して頂ける様、他職種とも今後のケアについて話し合いその人らしく生活できるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念『元気で明るく笑顔で過ごす』の積み重ねが生み出すあたたかさ満ちている事業所です。どうか自力で食べられる利用者がむせながらも「ゆっくり召し上がってくださいね」と隣に座る調査者を気にかけて、(認知症の症状で)突然歌い出したり手を叩く利用者の中傷もせず、お互いを気遣い受容する様には、日頃の職員の心を尽くした関わりが想像でき、懐メロが耳に優しくゆったりした雰囲気が流れる食事風景です。外部者も容易に判るよう、地域包括視線センター、民生委員からは「少ない人数でいつもニコニコ対応していて、いろいろ聞いてみないとわからないものですね。感謝、感謝で頭が上がりません」との言葉が届いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「元気で明るく笑顔ですぞす」というオープン 当時から理念があり利用者様はもちろん スタッフも明るく笑顔ですぞすという考えで取 り組んでいます	「職員も楽しくないと利用者に伝わってしまう」 と考え、開設当初作った理念は目に入る場所 に掲示しています。理念に基づいての作成で はないものの、本年度より目標管理制度始ま り、変化成長した職員もいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一人として日常的に交 流している	地域住民とのつながりをたいせつにしてい る。保育園児や中学生が1年に1~2回きて くれます。また中学2年生の職場体験もひき うけ、毎年4人が3日間学習しています	近隣の子どもたちが節分の日に地域を巡る 日本版のハロウィンのような催しは今年5年 目となり、利用者も菓子を手渡したくて前の めりになるほどです。中学校の職場体験の受 入れ、園児との交流も続いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	運営推進会議で認知症の方の対応等を話 し合っています。また地域包括に依頼され 「認知症家族の相談会」を開催しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	2カ月に1度会議を行っています。利用状況 や行事の報告サービス内容等の報告をする と共に民生委員やご家族の意見を集約し サービスの向上に取り組んでいます	運営推進会議には地域包括支援センター、 民生委員とともに、介護相談員の参加もあ ります。状況報告をおこない、困難事例につ いては一緒に考えてもらっており、アイデアを もらえることもあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員が毎月来て利用者様の声を聴 いて下さいます。市のシニアサポーター事業 にも登録をしボランティアにも来て頂いてま す	昨年9月に実地指導がありました。口頭指 導のみで指摘事項はありませんでした。事業 所でも運営推進会議の議事録を窓口まで訪 問して提出するほか、集団指導にも欠かさず 出席しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を常に念頭におき身体拘束委員 会で上がったことなどを毎月の会議で報告 し迅速に対策を講じ対応している。現在2 階入り口はほとんど施錠することがない状 態です	本年の法改正にあたっては、マニュアル・指 針を整備のうえ、身体拘束廃止委員会を設 置しています。4回の委員会開催も終え、年2 回の研修もスピーチロックについて等で実施 済みです。新任職員には新人研修にプログ ラムあり、今後も欠けることなくおこなえるよう 配られています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	高齢者虐待について意識を高め、入浴時 に体の観察を行いまた本人の行動・言動に注 意を払い早期発見できるよう職員一同情報 を共有しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護や後見人制度を必要とする方はいないが、研修などで学び今後の為に備えたいと思っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に施設見学をしていただきケアに対する方針や重度化について説明を行っている。利用者様・ご家族様の不安や疑問点などあれば随時お答えし信頼関係の構築に努めています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月家族にお手紙を送り日々の様子をお伝えしています。また家族来所時も意見などを申しやすいように配慮しています	家族とは携帯メールを以て一名を除いて繋がっています。敬老会やイチゴ狩り、クリスマス会には8割方の参加があり、また一家族で7~8人と大勢で訪れるケースもあり、事業所との良好な関係が覗えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1度のミーティング・研修を行い職員が働きやすい環境づくりと一人一人の能力向上に努めています	毎月の会議では意見を言いやすいように一人ひとりに発言を促しており、また管理者と課長が年に一度個人面談をおこなっています。人手不足で有休取得は難しいも、代出等のカバー協力が相互にできています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度から試験的に行われている人事考課で職員個々の目標を管理し達成できるよう環境整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修を通じて学んだ内容をミーティングで職員に伝え育成に取り組んでいます		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度にセクシオン会議を各施設内で行い意見交換しています。今年度より三ケ日での研修を行い他施設の方々と意見交換や勉強会を行っています。地域包括主催のミーティングに出席し意見交換を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人・ご家族に直接コミュニケーションを図りサービスの説明をさせて頂いています。また困っている事や不安なことなどを聞きながら利用者様が安心してその人らしい生活が送れるように心掛けています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅介護生活での大変さや問題点を家族と共に確認し情報をたくさん収集し共に考え信頼関係の構築に心掛けています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じアセスメントをし何が必要なのかを見極め、CMを中心に今後の支援について職員全員で検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で洗濯たたみや干すなど出来る事は一緒に行い本人の役割を感じて頂けるよう努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が参加できるイベントを開催し家族との交流が出来るようにしています。また遠方ですぐ会えないご家族などは電話をし声を聴いていただくなどして本人を支えていく関係づくりに努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親せき友達ご近所の方など馴染みの関係が途切れないようにしている。面会時に必要ならば間に入り本人との関係を聞きコミュニケーションとれるように支援しています	面会時間の制限はなく、18時以降仕事を終えてからの立ち寄り家族もいます。自分が作った梅干を自宅から持ち込んでいる人や、蜜柑畑をもつ家族は実がなる季節には枝付きで持参していただきます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、必要時に職員が間に入りコミュニケーション取れるように支援している。また他者とトラブルにならないよう職員同士注意し席替えなども行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も本人のところを訪問し暮らしの経過を確認しています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりの中で何気ない会話や表情・行動などで利用者様の思いをくみ取り叶えられるよう検討し支援につなげている。	言葉になる人とは日常の会話で、うまく出てこない人にはゆっくり1対1となる入浴時間を活用して、また職員が声を掛けるだけでなく、利用者に掛けてもらえるよう、慌ただしくしないようにすることにも配慮しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを活用し理解に努めています。本人や家族との会話からも情報を得るようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションをとりながら安心して生活ができる様支援資している。また、健康状態には日々注意を払い職員全員で共有し体調管理に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・関係者を交えて希望・要望・意向を伺い意見やアイデアを交換しそれを基に作成しています。職員の意見も参考にしています	介護支援専門員は週に二日勤務し本人、職員から聴き取りをおこない、月に一度は家族に会って要望を聞くよう努めています。また会議には介護支援専門員も参加したうえで介護計画書を策定しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の経過記録・排泄入浴食事BTチェックを記録しています。気づいた点があれば連絡ノートに記入し情報交換に生かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望やご家族のいこうを確認し、柔軟な支援やサービスが行えるように対応しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れや、地元中学生の職場体験・保育園児の慰問など、地域の人々との繋がりを大切に豊かな暮らしにつながるよう支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診医の受診を支援しています。利用者様の経過を主治医に伝え適切な医療を受けられるよう支援しています。	月に2回訪問診療がある協力医に全員が変更しています。専門医へは家族が付き添っており、アイアイコンシェルジュ(事業所勤務の職員が配置外の時間帯に別料金で対応)という制度を活用することもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員と看護師の連携に努め看護師より適切な指示を受け健康管理に努めている。些細な変化も見逃さないように日々の情報を職員と看護師が共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や医療機関と連携し治療等の情報を共有している。定期的に病院に伺い、回復状態に合わせ退院後の生活がスムーズに送られるように努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在対象者はいないがそうなった場合は主治医や家族と話し合い確認を取っていきご家族の意向に添えるよう努力していきます	現在は看取りに近い状態の人がいます。「病院ではなく、いい表情で居られる此処で最期を迎えてほしい」という家族希望を受け、出来る限りのことをさせてもらおうとの心構えであり、「ベッドから見えるこの景色が好きなんだ」という本人の言葉も励みとなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は勉強会などで知識をつけ応急処置は消防に依頼し実践を行いながら学習している。職員間でも緊急連絡もがあり近隣に住む職員が対応しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1F2F合同でレクの一環で「助けてー」などの声だしをしたり防災ずきんをかぶって階段の上り下りなどを行っています。また消防に依頼し救急法などをご近所の方も一緒に勉強しました	夜間想定も含め年2回の訓練を実施、消防署職員立合いも1回は受けています。本年は『救命救急講習』を実施、自治会長から近隣に声かけしてもらった結果5～6名の参加者を得ています。	次回はスモークハウス体験を予定しているとのことです。さらに近隣住民の参加者を増やすとともに、事業所も地域の防災訓練への参加があることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に高齢者への尊厳の想いを忘れないように心掛けている。人生の先輩とし尊厳を忘れず礼儀や言葉遣いに気を付ける様心掛けている。介助の一つ一つも尊重した対応を行うよう努力している	入浴は曜日で決まっていますが、男性職員が担当する時には女性職員に変わったり、曜日変更で工夫し同性介助の要望に応えています。呼称は基本的には「さん」ですが、本人の意向があれば沿っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの認知症の状況や理解力に応じて選択肢の増減を持って対応している。尊厳・傾聴に心掛け押しつけ介護にならないように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切にし本人らしさを尊重している。一日を楽しく過ごして頂ける様な配慮を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の要望があった際は訪問美容を使い女性らしさを忘れないよう支援している。その日の服も気分に合わせて一緒に選んでいます		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	育てている野菜で何が出来るかと話しながら準備をしています。また春はイチゴ狩り夏はスイカ割などでも楽しんでいただいています	調理専任職員が週5日勤務し、本来のメニューにプラスαして彩を添えています。訪問日も色鮮やかなパプリカを加えたマリネが際立ち食欲をそそっていました。またホットプレートでのおやつ作りも盛んです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量など毎回チェックし必要な栄養・水分の確保が出来るように支援しています。食事形態もその方に合わせムース食やエンシュア対応で栄養を補っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分では困難な方はこちらで支援しています。上手くうがい出来る様声掛けをしています。また訪問歯科にて口腔内チェック・治療をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを理解し声掛けや介助見守りを行っています。自力排便が困難な方もトイレに座ることで排便出来たりします。膀胱脱の方は排尿が困難ですが声掛けでゆっくり時間をかけて排尿できています	膀胱脱からの残尿感からトイレが一日50回以上と職員のみならず本人も難儀で、試行錯誤の中、医師の指導も得て残尿検査を並走しつつ、本人が穏やかに過ごせるよう支援しているケースもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂る・よく噛んで食べるなどの声掛けや便秘解消の体操をしている。それでも困難な方は看護師に対応してもらっています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3の入浴は体調や気分に応じ支援している。浴槽に入ることが困難な方も二人体制で対応できている。またシャワーだけの時は足浴も同時に行っている	入浴は週2～3回を目安としています。大好きな看護師が入浴介助してくれる日を楽しみにしている人や、「いい湯だな」の一節が十八番の人には職員も「ここは〇〇さんちの湯」との替え歌で愉しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合わせて日中でも休息がとれるように支援している。日中体を動かしたりベランダに出て日光浴をし安眠できるように支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にファイルを作成し職員がいつでも確認できるようにしている。また薬の必要性や副作用なども理解し誤薬や飲み忘れなどないように支援しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳みはみなさんで行っています。花壇を担当される方もいて球根を植えたり水かけの声掛けを行います。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や利用者様の体調また職員の配置に合わせて散歩や外出に行っています。一日に1回はベランダに出て外の空気を吸っていただけの様努めています	好天日はベランダに出て中学校の校庭を眺めたり、園児の散歩風景を楽しんだりしています。散歩のロングコースでは中学校の周囲を一回りする人もいます。初詣といちご狩りの定番のほか、富士川楽座や清水七夕祭り、秋葉の火祭りも恒例になりつつあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今はお金を持っている方はおりません。外出した際自分が欲しい物を自分で選んで購入することはあります		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「家に電話をかけたい」など希望される利用者様には都度対応しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事等の写真や利用者様作成の展示などが季節に合わせて展示してあります。歌が好きな利用者様が多いのでDVDをかけ一緒に歌ったりします。またホールにあるソファも自由に行き来できつろげるようにしています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は自由に好きな場所で好きな事のできる空間づくりをしている。ソファで利用者様同士が雑談することもあり、そこにさりげなく職員が入り会話を広げたりしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体状況に合わせ居室をご用意させていただいています。昔本人が作ったものを居室に飾っている方もいらっしゃいます	花好きな人の部屋にはタンスの上いっぱい の造花、折り紙の花が散りばめられた色紙が並んでいます。大好きなマッサージ師との写真を大事に飾る人もいて、その人の好みものに囲まれて暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の導線に邪魔になるようなものは置かない工夫をしています。出来る限り出来る事は自身でやって頂ける様支援しています		